

令和7年度 学力調査結果 速報

令和7年8月21日

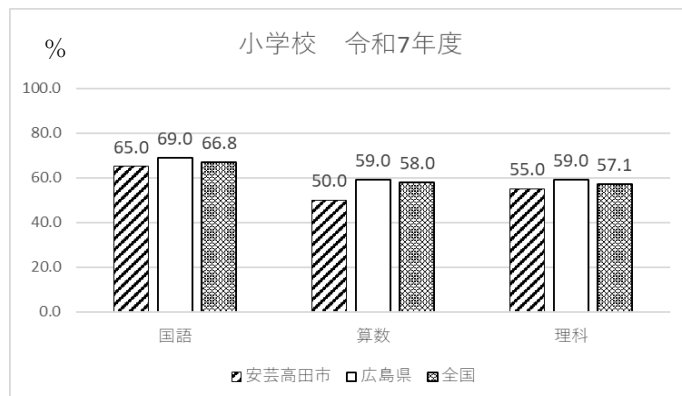
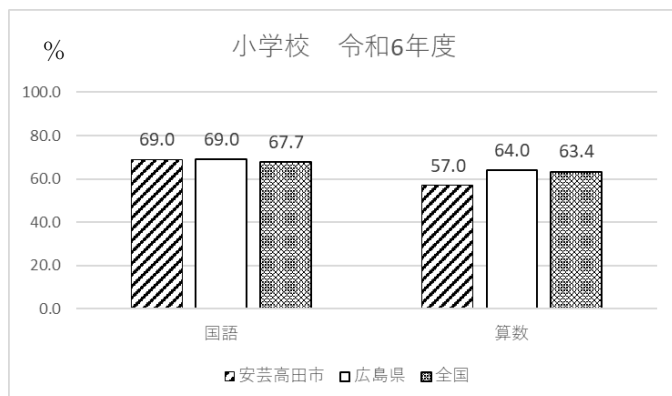
◎全国学力・学習状況調査（4月17日実施）

- 実施教科・・・（小学校第6学年）国語 算数 理科
（中学校第3学年）国語 数学 理科
- 実施人数・・・（小学校）178人 （中学校）179人

◆教科調査結果

＜小学校第6学年＞

■平均正答率



～教科調査の結果について～

【国語】

＜内容＞「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が65%で、県平均、全国平均より下回っている。
- ・「書くこと」において、平均正答率が全国平均を上回っているが、県平均と同等であり、その他の内容については、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題の理由をまとめて書く問題は、全国平均より11.7%上回っている。
- ・問題形式の「記述式」平均正答率は68.3%で、全国平均より9.5%上回っている。
- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付く」問題、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題の適切なものを選択する問題については、平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。

【算数】

＜領域＞「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」

- ・教科全体の平均正答率が50%で、県平均及び全国平均を大きく下回っている。
- ・全ての領域において、平均正答率が県平均及び全国平均を下回っている。「数と計算」と「変化と関係」については、県平均より10%以上、下回っている。「測定」「データの活用」については、県平均よりも約10%下回っており、課題が大きい。
- ・「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる」問題は平均正答率が県平均を18.7%下回っている。

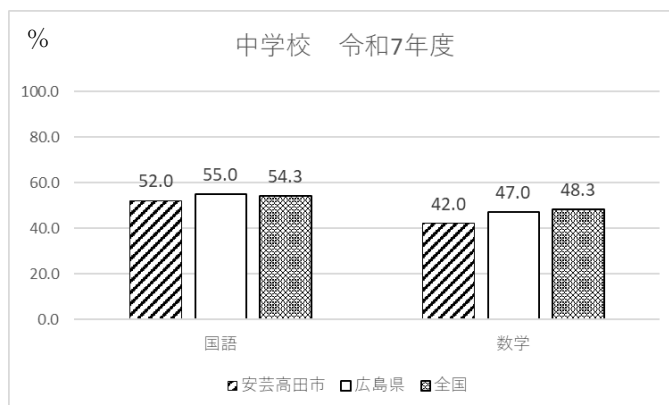
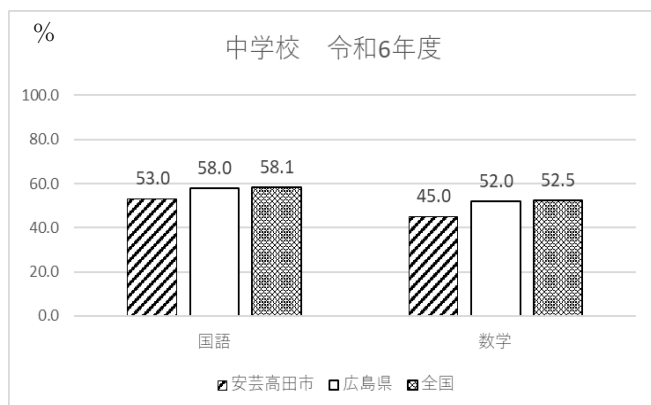
【理科】

＜領域＞「エネルギー」・「粒子」・「生命」・「地球」を柱とした領域

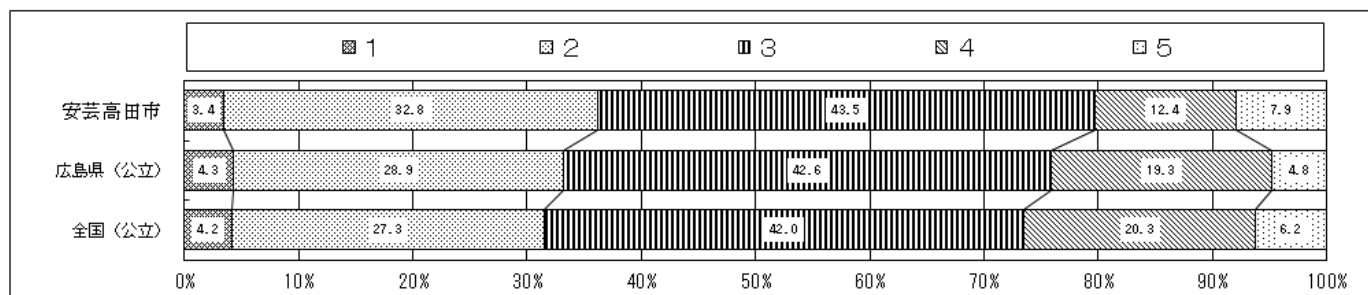
- ・教科全体の平均正答率が 55%で、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「生命」を柱とする領域については、平均正答率が県平均及び全国平均を上回っている。
- ・記述式の問題では、平均正答率が全国平均を 11.3%上回っている。
- ・「赤玉土の粒の大きさによる水のしみこみ方の違いについて解決するための実験の方法やヘチマの種子が発芽するために必要な条件について条件制御した解決方法を発想する」問題は、県平均及び全国平均よりも 10%以上、下回っている。
- ・「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかを問う」問題は、平均正答率が県平均及び全国平均より 14%以上、下回っている。

＜中学校第3学年＞

■平均正答率



IRT バンド分布比較（※生徒のスコアから5段階区切ったもの 5が高い数値）



～教科調査の結果について～

【国語】

＜内容＞「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が 52%で、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・すべての内容で、平均正答率が県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫する」問題、「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題は、県平均、全国平均より上回っている。
- ・「文脈に即して漢字を正しく使う」問題、「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」問題は、平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。

【数学】

＜領域＞「数と式」「図形」「関数」「データの活用」

- ・教科全体の平均正答率が42%で、県平均及び全国平均を5%以上、下回っている。
- ・「数と式」「図形」「データの活用」の領域で、平均正答率が県平均及び全国平均を下回っている。特に、「数と式」の領域は、正答率が県平均を8.2%下回っており課題が大きい。
- ・評価の観点では、「知識・技能」において県平均を4.8%、「思考・判断・表現」において県平均を5.2%下回っている。
- ・平均正答率が県平均より5%以上、下回っている問題は、次の6問である。
「数量を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」問題
「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」問題
「事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる」問題
「式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題
「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」問題
「統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる」問題

【理科】

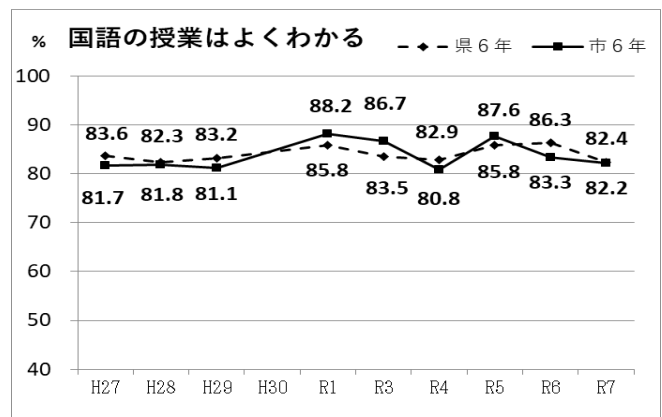
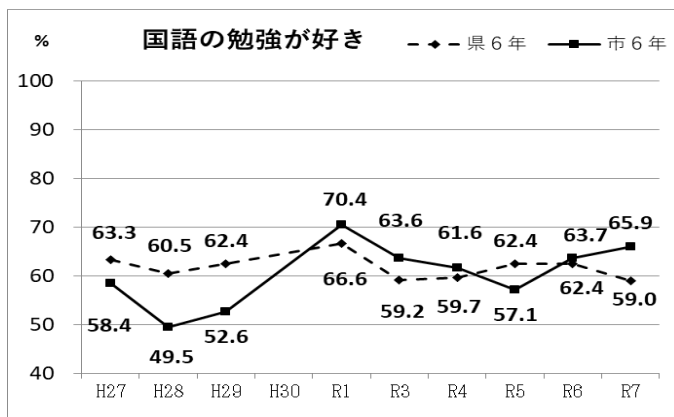
＜領域＞「エネルギー」・「粒子」・「生命」・「地球」を柱とした領域

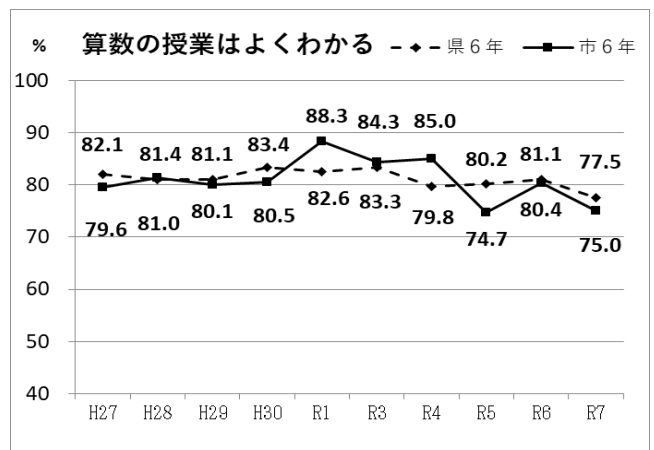
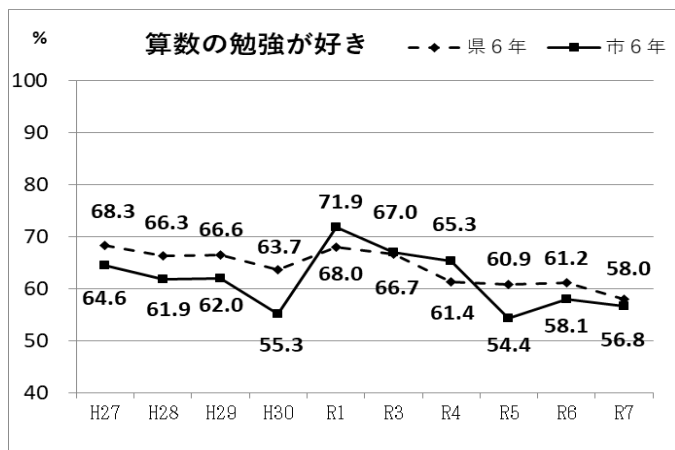
- ・平均IRTスコアが安芸高田市494 広島県495 全国503となっており、広島県と同程度であるが、全国よりはやや低い。
- ・「大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国より13.7%上回っている。
- ・「ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる」問題で、平均正答率が全国より8.2%上回っている。
- ・「仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる」問題で平均正答率が全国より12.2%下回っている。
- ・「気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる」問題で平均正答率が全国より11.8%下回っている。

◆質問紙調査結果

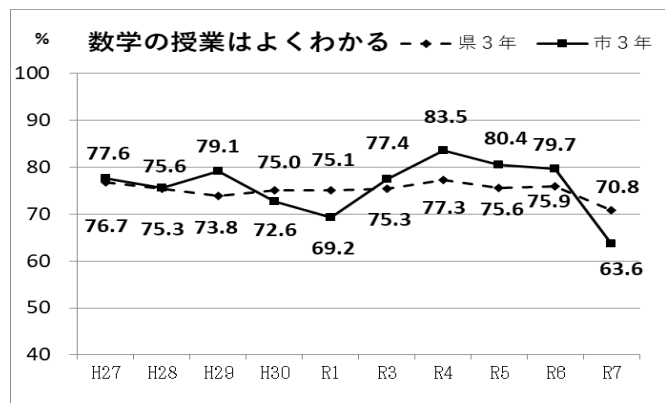
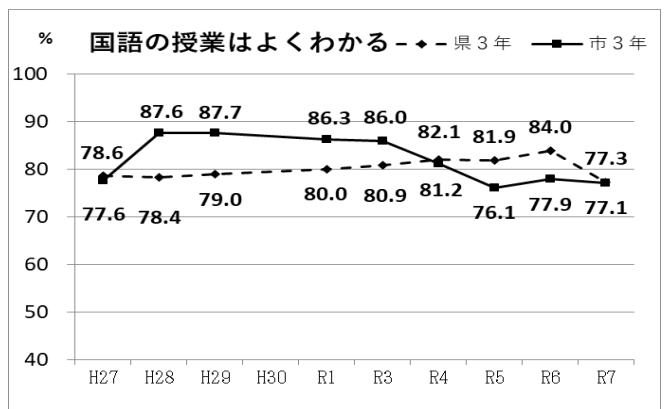
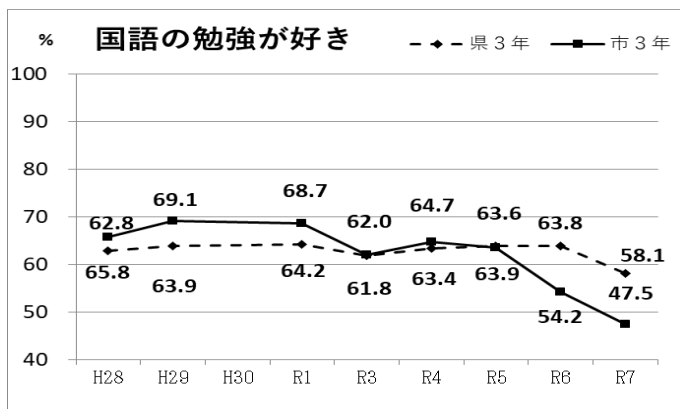
(1) 学習意欲

＜小学校＞



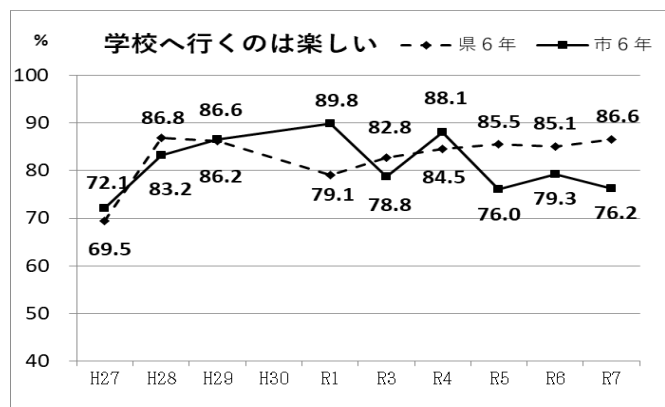
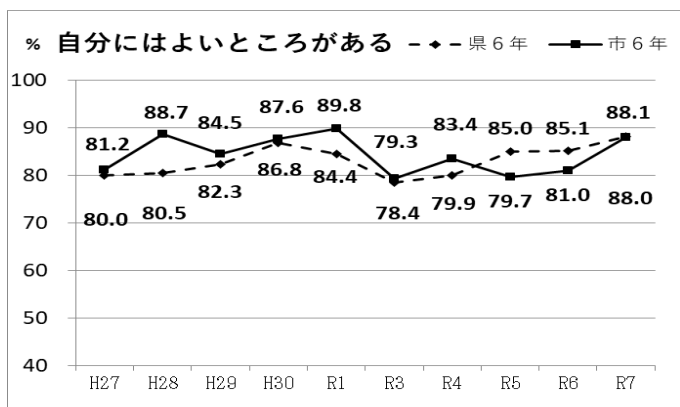


<中学校>

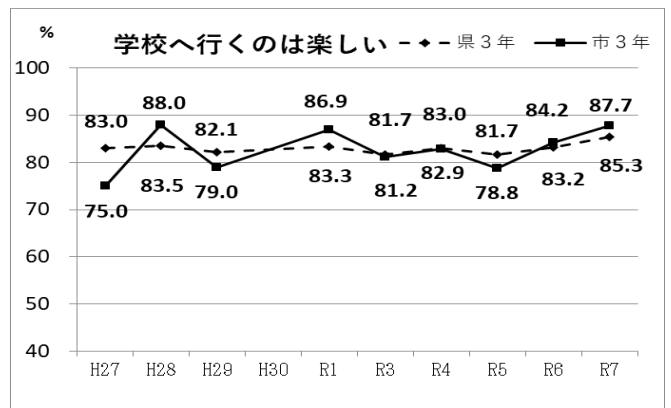
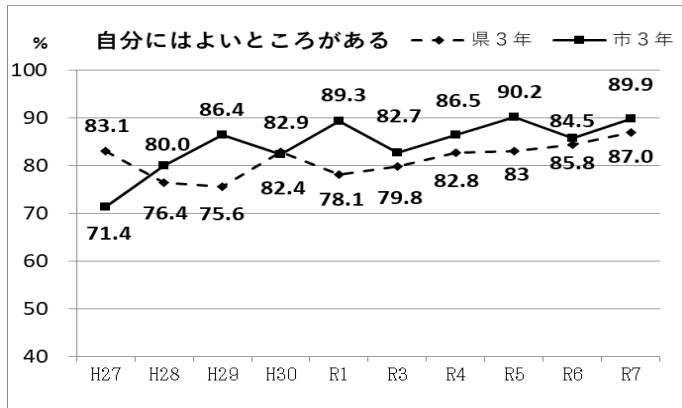


(2) 自己肯定感・所属感

<小学校>

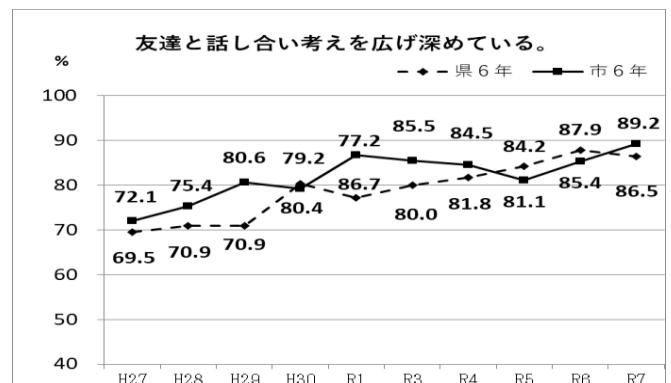
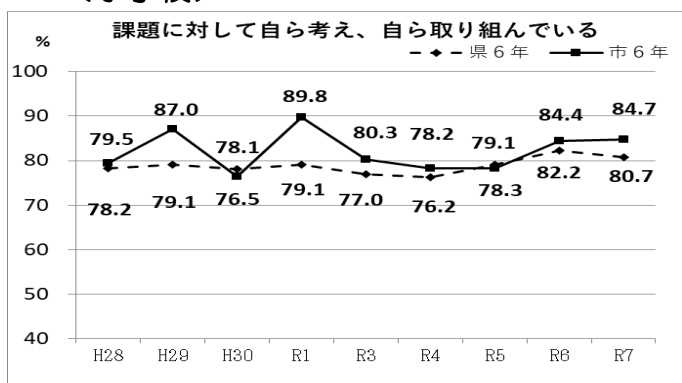


<中学校>

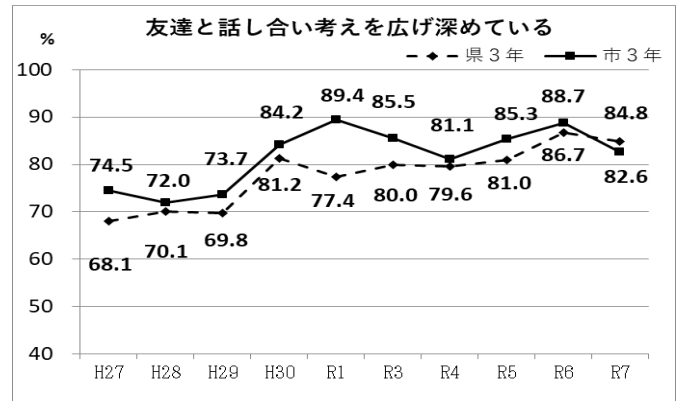
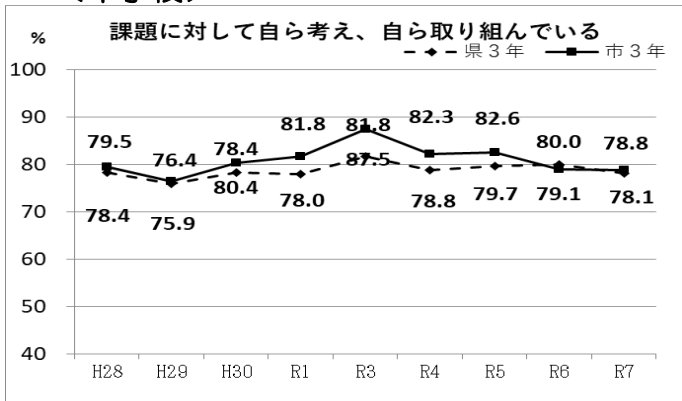


(3) 主体的な学び・協同学習

<小学校>



<中学校>



～質問紙調査の結果について～

<小学校>

- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う」の設問について、肯定的な回答をしている児童が県平均を大きく上回っている。
- ・「学校に行くのが楽しい」について、肯定的な回答をしている児童が県平均を大きく下回っている。
- ・「主体的な学び」に関する項目、「協同学習」に関する項目については、県平均を上回っているが、学校間の差が大きい。

- ・「国語の勉強が好き」について、肯定的な回答をしている児童の割合が県平均より上回っている。
- ・「算数の勉強が好き」について、肯定的な回答をしている児童の割合が県平均より下回っている。

< 中学校 >

- ・「学校に行くのが楽しい」「自分には良いところがある」については、県平均を上回っているが、1割強の生徒が否定的な回答をしている。
- ・「主体的な学び・協同学習」に関する項目の「課題に対して自ら取り組んでいる」については県平均と同程度であるが「友達と話し合い考えを深めている」については、県平均を1.6%下回っている。
- ・「国語の勉強が好き」については、県平均を10.6%下回っている。また、「数学の勉強が好き」についても県平均を1.9%下回っている。

～全体にかかわって 考察～

- ・小学校、中学校ともに、平均正答率が県平均を下回っているという結果から、各校において児童生徒の実態に基づいた授業改善を早急に進めていく必要がある。特に、小学校算数は、県平均を9%と大きく下回っており市全体で取組を進めていかねばならない。
- ・質問紙調査において、肯定的な評価をしている児童生徒の割合が高い学校では、正答率が高い傾向にある。
- ・質問紙調査において、小学校、中学校ともに否定的な評価をしている項目が多い学校があり、各校において細かな分析を行い、取組を進めていく必要がある。
- ・小学校の「学校に行くのが楽しい」については、肯定的な回答をした児童の割合が県平均を大きく下回っており、各校で細かな分析を行い、日々の授業づくりはもちろんのこと、教育活動全体を通じて充実感や達成感等が味わえるような取組を進めていく必要がある。

～今後の取組～

- 各学校において、教科調査結果と質問紙調査結果とを関連付けて成果と課題を分析し、「協同学習」の授業づくりで取り組むべきことを明確にしながら取組を進めていく。
- 学校教育課においては、各校の「授業改善」に向けて次の取組を行う。
 - ①管理職・研究主任等による研修会の実施
 - ②小学校算数科研修会の実施
 - ③各校の課題に即した訪問指導（授業者の困り感を聴く、参観者が自分事とする研修の実施）
 - ④各校の授業改善の進捗確認（校長・教頭への意識づけ）